

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2022年11月11日

【四半期会計期間】 第143期第2四半期(自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)

【会社名】 高砂熱学工業株式会社

【英訳名】 Takasago Thermal Engineering Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 C O O 社長執行役員 小島 和人

【本店の所在の場所】 東京都新宿区新宿六丁目27番30号

【電話番号】 (03)6369-8212(代表)

【事務連絡者氏名】 財務・I R統括部長 森野 正敏

【最寄りの連絡場所】 東京都新宿区新宿六丁目27番30号

【電話番号】 (03)6369-8214

【事務連絡者氏名】 財務・I R統括部経理部長 松崎 秀樹

【縦覧に供する場所】 高砂熱学工業株式会社 大阪支店  
(大阪市北区茶屋町19番19号(アプローズタワー))

高砂熱学工業株式会社 名古屋支店  
(名古屋市中村区名駅一丁目1番4号  
(JRセントラルタワーズ))

高砂熱学工業株式会社 横浜支店  
(横浜市西区みなとみらい二丁目2番1号  
(横浜ランドマークタワー))

高砂熱学工業株式会社 関信越支店  
(さいたま市大宮区桜木町一丁目10番地16  
(シーノ大宮ノースウイング))

株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第142期 第2四半期 連結累計期間	第143期 第2四半期 連結累計期間	第142期
会計期間	自 2021年4月1日 至 2021年9月30日	自 2022年4月1日 至 2022年9月30日	自 2021年4月1日 至 2022年3月31日
売上高 (百万円)	122,275	150,801	302,746
経常利益 (百万円)	3,055	2,347	15,639
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	1,786	1,462	11,535
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	2,363	3,822	11,016
純資産額 (百万円)	135,030	138,853	136,897
総資産額 (百万円)	255,970	287,400	300,736
1株当たり四半期(当期) 純利益 (円)	25.84	22.10	169.38
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	51.3	46.7	44.2
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	13,115	16,238	1,186
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	138	37	1,042
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	7,851	5,383	8,007
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	41,304	37,132	56,867

回次	第142期 第2四半期 連結会計期間	第143期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2021年7月1日 至 2021年9月30日	自 2022年7月1日 至 2022年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	27.44	29.37

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 3 役員報酬BIP信託および株式給付信託(J-E SOP)が保有する当社株式を四半期連結貸借対照表において自己株式として計上しております。これに伴い、当該信託が保有する株式を、1株当たり四半期(当期)純利益の算定上、「普通株式の期中平均株式数」の計算において控除する自己株式に含めております。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)が営む事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に關する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があるとして認識している主要なリスクの発生または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであり、その実現を約束する趣旨のものではありません。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

##### 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大による経済活動の制限緩和により、平常化への動きが見られる一方で、急速な円安進行等による原材料価格の上昇や供給面での制約など不透明な状況が続いております。

建設業界および当社関連の空調設備業界におきましては、製造業を中心に設備投資への持ち直しの動きがあるものの、経済の先行き不透明感への懸念など、事業運営には慎重な取り組みが求められる状況で推移しました。

このような経営環境において、ESGやカーボンニュートラルに向けた取り組みの重要性は増してきており、当社におきましては、これまでの成長戦略の実行を加速し、「環境事業」ならびに「人的資本」への投資を推進しております。

当社グループの当第2四半期連結累計期間の売上高は、150,801百万円（前年同四半期比+23.3%）となりました。

利益につきましては、売上高は前年同四半期との対比で増加するものの、販売費及び一般管理費の増加等の影響により、営業利益は1,555百万円（前年同四半期比 30.3%）、経常利益は2,347百万円（前年同四半期比 23.1%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,462百万円（前年同四半期比 18.1%）となりました。

また、受注高につきましては、223,931百万円（前年同四半期比+45.5%）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。（セグメントごとの経営成績については、セグメント間の内部売上高等を含めて記載しております。）

##### （設備工事業）

売上高は147,925百万円（前年同四半期比+23.8%）、セグメント利益（営業利益）は1,571百万円（前年同四半期比 28.9%）となりました。

##### （設備機器の製造・販売事業）

売上高は3,012百万円（前年同四半期比+3.3%）、セグメント損失（営業損失）は80百万円（前年同四半期はセグメント損失28百万円）となりました。

##### （その他）

売上高は67百万円（前年同四半期比 11.1%）、セグメント利益（営業利益）は49百万円（前年同四半期比 18.3%）となりました。

## 財政状態の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、現金預金が減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べて13,335百万円減少し、287,400百万円となりました。

負債合計は、支払手形・工事未払金等が減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べて15,291百万円減少し、148,546百万円となりました。

また、純資産合計は、為替換算調整勘定が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べて1,955百万円増加し、138,853百万円となりました。

### (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における「現金及び現金同等物」は、前連結会計年度末に比べて19,734百万円減少し、37,132百万円となりました。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、16,238百万円の支出（前年同四半期比 3,123百万円）となりました。これは主に仕入債務の減少などによるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、37百万円の収入（前年同四半期は138百万円の支出）となりました。これは主に関係会社の整理による収入によるものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、5,383百万円の支出（前年同四半期比 +2,467百万円）となりました。これは主に短期借入金の純減によるものであります。

### (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

前事業年度に係る有価証券報告書提出日以降、当第2四半期連結累計期間において、重要な変更または新たに発生した事項等はありません。

### (4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループが支出した研究開発費の総額は、1,202百万円であります。

### (5) 受注の実績

当第2四半期連結累計期間における受注の状況は次のとおりであります。

セグメントの名称	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日) (百万円)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日) (百万円)	前年同四半期比 (%)
設備工事業	150,757	220,365	46.2
設備機器の製造・販売事業	3,097	3,497	12.9
その他	66	67	1.8
合計	153,921	223,931	45.5
(うち海外)	(22,914)	(45,315)	(97.8)
(うち保守・メンテナンス)	(13,018)	(12,418)	( 4.6)

## 3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等は行われておりません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	200,000,000
計	200,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2022年11月11日)	上場金融商品取引所名 または登録認可金融商 品取引業協会名	内容
普通株式	70,239,402	70,239,402	東京証券取引所 (プライム市場)	単元株式数は100株であります。
計	70,239,402	70,239,402		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2022年9月30日	-	70,239	-	13,134	-	12,853

(5) 【大株主の状況】

2022年9月30日現在

氏名または名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を除く。)の総数に 対する所有株式 数の割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	7,365	10.95
日本生命保険相互会社 (常任代理人 日本マスタートラスト信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号 (東京都港区浜松町2丁目11番3号)	4,560	6.78
第一生命保険株式会社 (常任代理人 株式会社日本カストディ銀行)	東京都千代田区有楽町1丁目13番1号 (東京都中央区晴海1丁目8番12号)	4,231	6.29
高砂熱学従業員持株会	東京都新宿区新宿6丁目27番30号	3,443	5.12
高砂共栄会	東京都新宿区新宿6丁目27番30号	2,987	4.44
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番12号	2,378	3.53
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	1,439	2.14
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001 (常任代理人 株式会社みずほ銀行 決済営業部)	P.O. BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U.S.A. (東京都港区港南2丁目15番1号)	1,375	2.04
株式会社みずほ銀行 (常任代理人 株式会社日本カストディ銀行)	東京都千代田区大手町1丁目5番5号 (東京都中央区晴海1丁目8番12号)	1,210	1.79
株式会社京王閣	東京都調布市多摩川4丁目31番1号	1,016	1.51
計	-	30,007	44.61

- (注) 1 所有株式数は、千株未満を切り捨てて表示しております。  
2 発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合は、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。  
3 上記のほか、自己株式が2,985千株あります。なお、当該自己株式には役員報酬BIP信託および株式給付信託(J-E SOP)が保有する当社株式(756千株)は含めておりません。

(6) 【議決権の状況】  
【発行済株式】

2022年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,985,500 (相互保有株式) 普通株式 777,300		
完全議決権株式(その他)	普通株式 66,396,500	663,965	
単元未満株式	普通株式 80,102		
発行済株式総数	70,239,402		
総株主の議決権		663,965	

- (注) 1 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己保有株式85株を含めております。  
2 「完全議決権株式(その他)」の欄には、役員報酬B I P信託および株式給付信託(J - E S O P)が保有する当社株式756,220株(議決権個数7,562個)が含まれております。

【自己株式等】

2022年9月30日現在

所有者の氏名 または名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 高砂熱学工業株式会社	東京都新宿区新宿6丁目27 番30号	2,985,500	-	2,985,500	4.25
(相互保有株式) 日本設備工業株式会社	東京都千代田区大手町1丁 目7番2号	777,300	-	777,300	1.10
計		3,762,800	-	3,762,800	5.35

- (注) 1 発行済株式総数に対する所有株式数の割合は、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。  
2 上記のほか、役員報酬B I P信託および株式給付信託(J - E S O P)が保有する当社株式756,220株を四半期連結貸借対照表上、自己株式として処理しております。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当第2四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号)に準拠して作成し、「建設業法施行規則」(1949年建設省令第14号)に準じて記載しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2022年7月1日から2022年9月30日まで)および第2四半期連結累計期間(2022年4月1日から2022年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。



## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金預金	56,960	37,232
受取手形・完成工事未収入金及び契約資産	149,948	151,572
電子記録債権	8,996	9,074
未成工事支出金等	1 3,229	1 3,372
その他	9,380	14,018
貸倒引当金	308	363
流動資産合計	228,208	214,907
固定資産		
有形固定資産	20,760	20,965
無形固定資産		
のれん	1,920	1,998
その他	6,184	5,859
無形固定資産合計	8,104	7,858
投資その他の資産		
投資有価証券	33,463	33,464
退職給付に係る資産	3,337	3,417
差入保証金	2,944	2,913
その他	6,182	6,138
貸倒引当金	2,263	2,264
投資その他の資産合計	43,663	43,669
固定資産合計	72,528	72,493
資産合計	300,736	287,400

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	65,049	50,579
電子記録債務	21,223	18,928
短期借入金	8,058	5,473
未払金	2,514	2,325
未払法人税等	3,011	919
未成工事受入金	16,116	20,938
賞与引当金	4,403	3,449
役員賞与引当金	82	49
完成工事補償引当金	861	953
工事損失引当金	2,018	1,381
その他	11,003	14,177
流動負債合計	134,342	119,176
固定負債		
社債	25,000	25,000
退職給付に係る負債	1,045	1,043
株式給付引当金	733	704
役員退職慰労引当金	117	120
繰延税金負債	1,734	1,537
その他	865	964
固定負債合計	29,496	29,370
負債合計	163,838	148,546
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,134	13,134
資本剰余金	12,691	12,691
利益剰余金	105,788	105,166
自己株式	7,750	7,568
株主資本合計	123,864	123,423
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,355	9,833
為替換算調整勘定	208	1,136
退職給付に係る調整累計額	114	178
その他の包括利益累計額合計	9,033	10,792
非支配株主持分	4,000	4,637
純資産合計	136,897	138,853
負債純資産合計	300,736	287,400

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
売上高	122,275	150,801
売上原価	107,803	134,264
売上総利益	14,472	16,536
販売費及び一般管理費		
従業員給料手当	3,981	4,187
賞与引当金繰入額	909	1,152
退職給付費用	151	141
株式給付引当金繰入額	62	123
その他	7,136	9,376
販売費及び一般管理費合計	12,240	14,981
営業利益	2,231	1,555
営業外収益		
受取利息	78	113
受取配当金	361	396
保険配当金	143	147
持分法による投資利益	39	-
不動産賃貸料	383	365
為替差益	-	303
その他	302	332
営業外収益合計	1,309	1,658
営業外費用		
支払利息	111	129
持分法による投資損失	-	66
貸倒引当金繰入額	122	85
不動産賃貸費用	189	263
為替差損	31	-
支払補償金	-	245
その他	30	75
営業外費用合計	486	865
経常利益	3,055	2,347
特別利益		
事業譲渡益	-	68
投資有価証券売却益	-	6
その他	0	0
特別利益合計	0	75
特別損失		
固定資産除却損	14	22
投資有価証券評価損	-	39
その他	25	3
特別損失合計	40	66
税金等調整前四半期純利益	3,015	2,356
法人税、住民税及び事業税	1,369	711
法人税等合計	1,369	711
四半期純利益	1,645	1,645
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失( )	140	182
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,786	1,462

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
四半期純利益	1,645	1,645
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	333	488
為替換算調整勘定	454	1,762
退職給付に係る調整額	77	67
持分法適用会社に対する持分相当額	8	6
その他の包括利益合計	717	2,176
四半期包括利益	2,363	3,822
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,422	3,222
非支配株主に係る四半期包括利益	59	600

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	3,015	2,356
減価償却費	834	1,123
のれん償却額	94	111
賞与引当金の増減額(は減少)	1,190	953
工事損失引当金の増減額(は減少)	492	651
退職給付に係る資産の増減額(は増加)	172	181
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	26	10
受取利息及び受取配当金	439	509
支払利息	111	129
持分法による投資損益(は益)	39	66
売上債権の増減額(は増加)	7,004	36
未成工事支出金等の増減額(は増加)	398	39
仕入債務の増減額(は減少)	18,125	18,456
未成工事受入金の増減額(は減少)	2,029	3,426
未収消費税等の増減額(は増加)	2,902	2,408
未払消費税等の増減額(は減少)	261	257
為替差損益(は益)	104	105
その他	487	2,460
小計	11,343	13,863
利息及び配当金の受取額	461	545
利息の支払額	112	128
法人税等の支払額	2,172	3,092
法人税等の還付額	52	301
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>13,115</b>	<b>16,238</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	138	35
定期預金の払戻による収入	1,864	29
有形及び無形固定資産の取得による支出	2,039	927
投資有価証券の取得による支出	20	55
投資有価証券の売却による収入	-	14
関係会社株式の取得による支出	-	118
貸付けによる支出	321	3
関係会社の整理による収入	-	809
その他の支出	194	128
その他の収入	710	453
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>138</b>	<b>37</b>

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（は減少）	773	2,970
リース債務の返済による支出	183	232
自己株式の取得による支出	1,594	0
自己株式取得のための預託金の増減額（は増加）	4,728	-
配当金の支払額	1,966	2,084
その他	152	95
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,851	5,383
現金及び現金同等物に係る換算差額	138	1,849
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	20,966	19,734
現金及び現金同等物の期首残高	62,271	56,867
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 41,304	1 37,132

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

当第2四半期連結累計期間  
(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27 - 2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。これにより、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

## (四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	
税金費用の計算	<p>税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を使用する方法によって計算しております。</p> <p>ただし、税引前四半期純損失となった場合等には、法定実効税率を使用する方法によって計算しております。</p>



(四半期連結貸借対照表関係)

1 未成工事支出金等

未成工事支出金等に属する資産の科目およびその金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
未成工事支出金	1,111百万円	775百万円
商品及び製品	321	618
仕掛品	68	60
材料貯蔵品	1,727	1,918
計	3,229	3,372

2 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対して、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
Iclean Hollow Metal Systems Pvt.Ltd.	270百万円	271百万円
計		

連結会社以外の会社の工事請負に係る金融機関の工事履行保証に対して、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
Iclean Hollow Metal Systems Pvt.Ltd.	176百万円	210百万円
計		

(四半期連結損益計算書関係)

1 売上高の季節的変動

前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
当社グループの売上高は、主たる事業である設備工事業において、工事の完成引渡し第4四半期連結会計期間に集中しているため、第1四半期連結会計期間から第3四半期連結会計期間における売上高に比べ、第4四半期連結会計期間に売上高が著しく多くなるといった季節的変動があります。	同左

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の当第2四半期連結累計期間末残高と当第2四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
現金預金	41,502百万円	37,232百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	197	99
現金及び現金同等物	41,304	37,132

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月22日 定時株主総会	普通株式	1,966百万円	28円00銭	2021年3月31日	2021年6月23日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年11月12日 取締役会	普通株式	2,019百万円	29円00銭	2021年9月30日	2021年12月10日	利益剰余金

3 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月21日 定時株主総会	普通株式	2,084百万円	31円00銭	2022年3月31日	2022年6月22日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年11月11日 取締役会	普通株式	2,017百万円	30円00銭	2022年9月30日	2022年12月9日	利益剰余金

3 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3
	設備工事 事業	設備機器の 製造・販売 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	119,528	2,680	122,208	66	122,275	-	122,275
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	233	233	9	243	243	-
計	119,528	2,914	122,442	76	122,519	243	122,275
セグメント利益又は損失( )	2,211	28	2,183	59	2,243	12	2,231

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理店等の事業であります。

2 セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3
	設備工事 事業	設備機器の 製造・販売 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	147,925	2,808	150,733	67	150,801	-	150,801
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	203	204	-	204	204	-
計	147,925	3,012	150,937	67	151,005	204	150,801
セグメント利益又は損失( )	1,571	80	1,491	49	1,540	15	1,555

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理店等の事業であります。

2 セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

財またはサービスの種類別の内訳

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	設備工事業	設備機器の 製造・販売事業	計		
一般設備工事	66,851	-	66,851	-	66,851
産業設備工事	52,676	-	52,676	-	52,676
設備機器の製造販売	-	2,680	2,680	-	2,680
その他	-	-	-	66	66
顧客との契約から生じる収益	119,528	2,680	122,208	66	122,275
外部顧客への売上高	119,528	2,680	122,208	66	122,275

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理店等の事業であります。

地域別の内訳

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	設備工事業	設備機器の 製造・販売事業	計		
国内	100,001	2,680	102,681	66	102,748
海外	19,527	-	19,527	-	19,527
顧客との契約から生じる収益	119,528	2,680	122,208	66	122,275
外部顧客への売上高	119,528	2,680	122,208	66	122,275

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理店等の事業であります。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

財またはサービスの種類別の内訳

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	設備工事業	設備機器の 製造・販売事業	計		
一般設備工事	68,903	-	68,903	-	68,903
産業設備工事	79,021	-	79,021	-	79,021
設備機器の製造販売	-	2,808	2,808	-	2,808
その他	-	-	-	67	67
顧客との契約から生じる収益	147,925	2,808	150,733	67	150,801
外部顧客への売上高	147,925	2,808	150,733	67	150,801

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理店等の事業であります。

地域別の内訳

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	設備工事業	設備機器の 製造・販売事業	計		
国内	118,290	2,808	121,098	67	121,166
海外	29,635	-	29,635	-	29,635
顧客との契約から生じる収益	147,925	2,808	150,733	67	150,801
外部顧客への売上高	147,925	2,808	150,733	67	150,801

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理店等の事業であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益および算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
1株当たり四半期純利益	25円84銭	22円10銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	1,786	1,462
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	1,786	1,462
普通株式の期中平均株式数 (株)	69,113,475	66,184,373

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 「役員報酬BIP信託」および「株式給付信託(J-E S O P)」が保有する当社株式を四半期連結貸借対照表において自己株式として計上しております。これに伴い、当該信託が保有する株式を、1株当たり四半期純利益の算定上、「普通株式の期中平均株式数」の計算において控除する自己株式数に含めております(前第2四半期連結累計期間739,592株、当第2四半期連結累計期間805,289株)。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

(中間配当に関する取締役会の決議)

中間配当に関する取締役会の決議は、次のとおりであります。

- |                        |             |
|------------------------|-------------|
| (1) 決議年月日              | 2022年11月11日 |
| (2) 中間配当金の総額           | 2,017百万円    |
| (3) 普通株式1株当たりの金額       | 30円00銭      |
| (4) 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 | 2022年12月9日  |

(注) 2022年9月30日の最終の株主名簿に記録された株主または登録株式質権者に対し、支払いを行います。



## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年11月11日

高砂熱学工業株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 永 田 篤

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 木 村 純 一

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている高砂熱学工業株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、高砂熱学工業株式会社及び連結子会社の2022年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

・四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。